



こどもとともににつくる 多世代交流の居場所づくり

公益財団法人仙台こども財団
理事長 湯浅 誠



仙台こども財団について

ビジョン

まち全体がこども・子育て家庭にあたたかく、
すべてのこどもが健やかに育つ社会



こどもが主体的に
参画できる機会を増やす



多世代交流を促進し
人と人とのつながりを育む



「チーム」で子育てる
環境を整える



中間支援組織としての
基盤を固める



本日お話ししたこと

1 なぜ今“居場所”が必要なのか

2 “多世代”がつながる居場所

3 “こどもとともに”つくる居場所

4 仙台こども財団の取組



1 なぜ今“居場所”が必要なのか



子どもの居場所づくりが求められる背景

地域のつながりの
希薄化・少子化

子どもたちの
困難な環境

価値観の多様化

地域の多様なニーズや特性を踏まえた

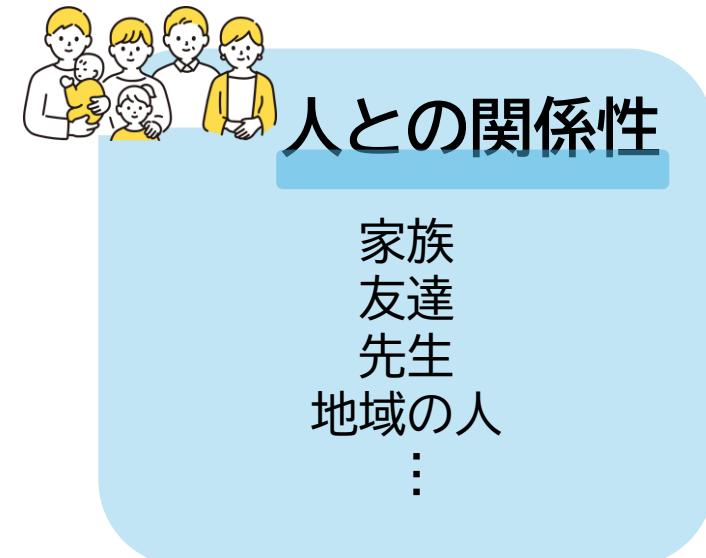
多様な居場所が求められている



居場所はいろいろ

- こども・若者が過ごす場所・時間・人との関係性全てが、こども・若者にとっての居場所になり得る。すなわち居場所とは、物理的な「場」だけでなく、遊びや体験活動、オンライン空間といった多様な形態をとり得るものである。

(子どもの居場所づくりに関する指針より)



居場所は本人が決めるもの

- こうした多様な場が子どもの居場所になるかどうかは、一義的には、**こども・若者本人がそこを居場所と感じるかどうか**によっている。その意味で、居場所とは主観的側面を含んだ概念である。
- したがって、その場や対象を居場所と感じるかどうかは、**こども・若者本人が決める**ことであり、そこに行くかどうか、どう過ごすか、その場をどのようにしていきたいなど、こども・若者が自ら決め、行動する姿勢など、**こども・若者の主体性を大切にすることが求められる。**

(子どもの居場所づくりに関する指針より)

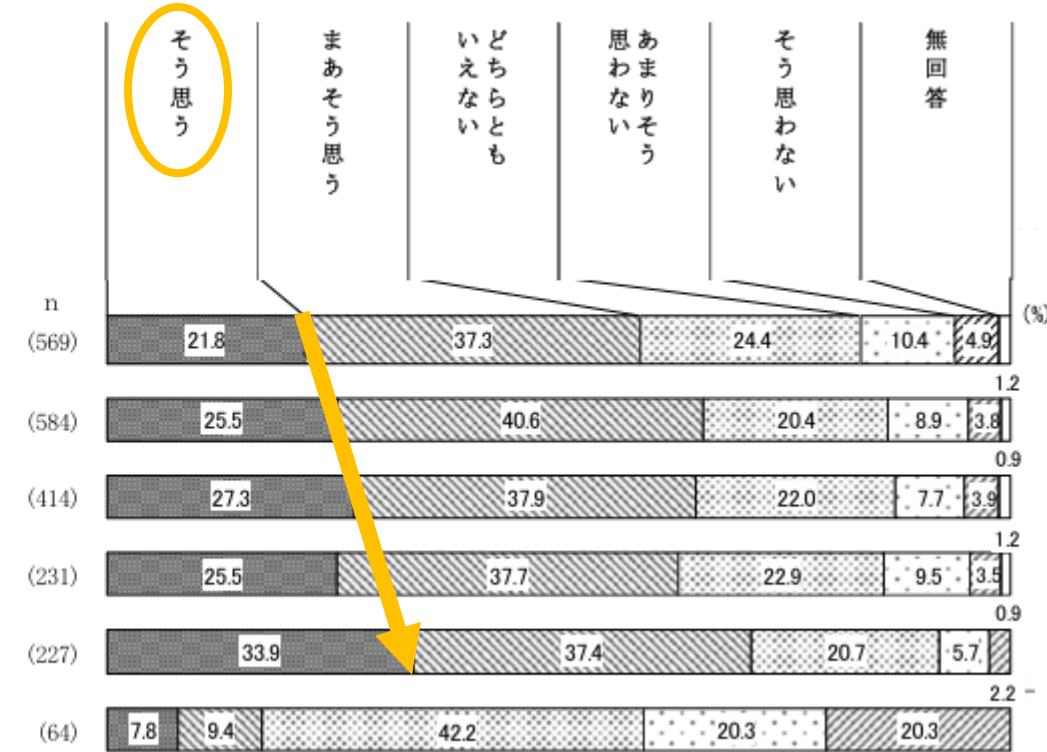
居場所の数×自己肯定感・自己有用感

居心地がいいと感じる居場所の数が増えるほど、«そう思う»が増加傾向

＜自分のことは好き＞



＜自分は必要とされていると感じる＞



仙台市こども・若者アンケート(令和6年3月仙台市)より

財団が増やしていきたい居場所

子ども・若者が「ここが自分の居場所」と感じる居場所

多世代交流



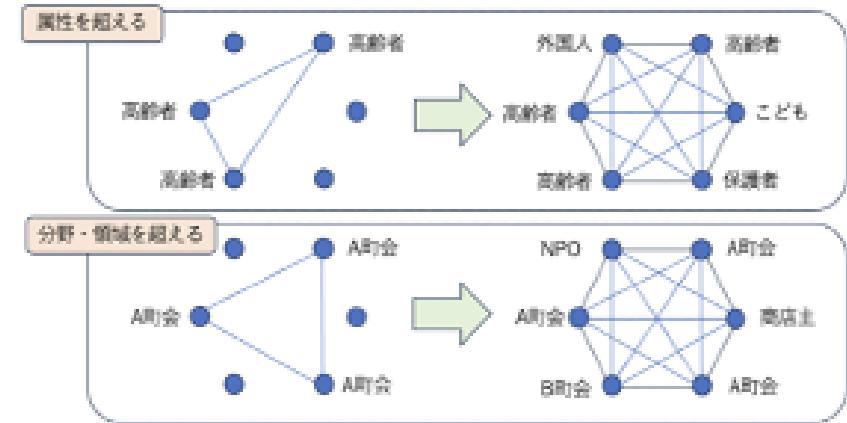
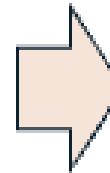
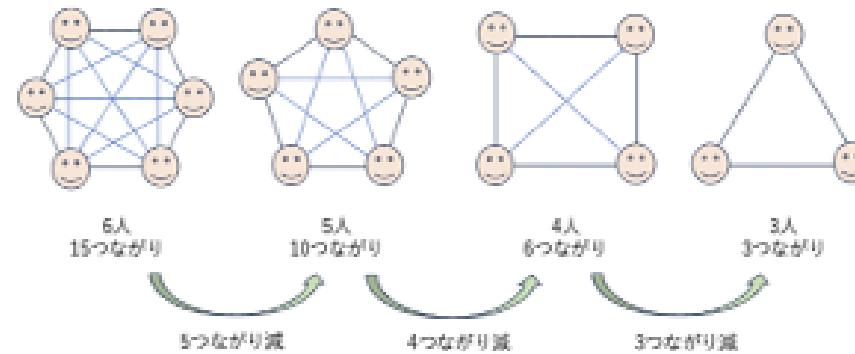
子どもと
ともにつくる



2 “多世代”がつながる居場所



“多世代交流”がつながる意義



- ・人口減少局面においては、人数の減少数以上につながりの絶対数が減っていく
- ・つながりは双方向なので、少ないつながりの中で誰かが病気等で出られなくなると、その相手方が健康で裕福であっても、その人も孤立する
- ・健康状態が良く、所得が高くても、孤立リスクは全般的に高まっていく
- ・乗り越える方法は3つの超越。属性を超える、分野を超える、領域を超える。
- ・それによって「つながりの絶対数減少」に抗う
- ・自治体はその中でプラットフォーマー・後方支援者としての役割を担う

(* 人数とつながり数の相関関係は、一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所長・藤山浩氏のご教授による)



“みんながまんなか”の居場所づくり

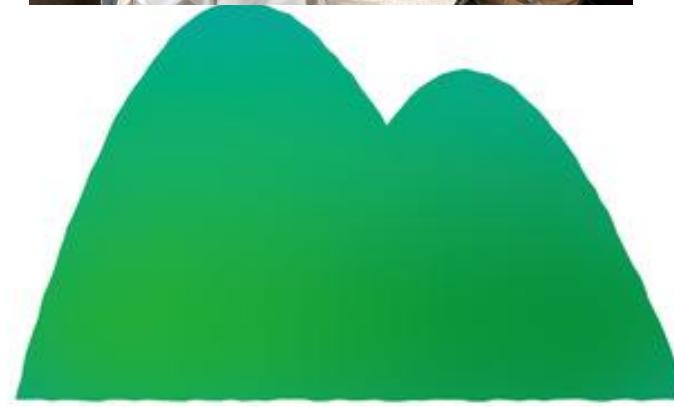


高齢者の居場所づくり

地域づくり



子どもの居場所づくり



3 “こどもとともに”つくる居場所



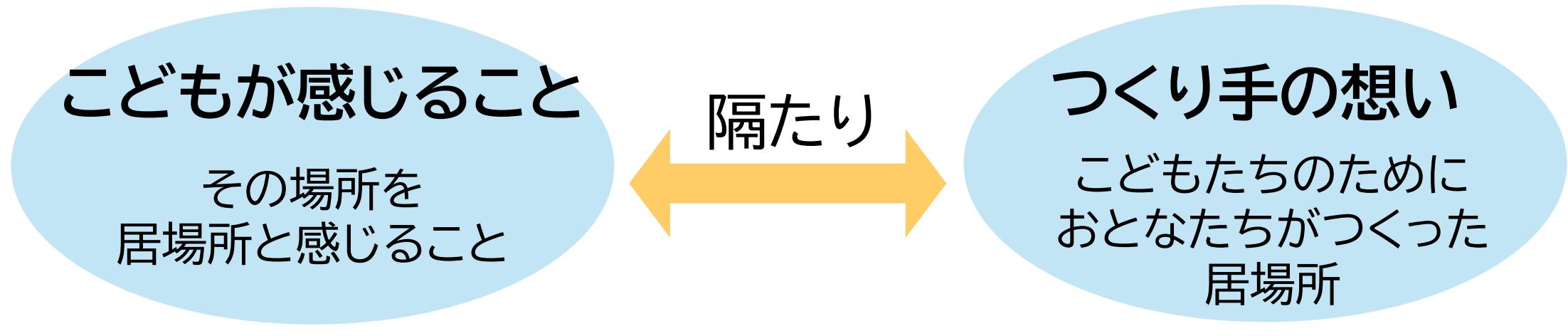
子どもの視点に立った居場所づくり

- 子ども・若者が居場所と感じる場が「子どもの居場所」になるとすれば、居場所づくりを進める上で重要なのは、子ども・若者の意見を聴き、子ども・若者の視点に立ち、子ども・若者とともに居場所をつくっていくことである。
- 子ども・若者が居場所に求める要素としては多様なものがあり得るが、子ども・若者へのヒアリング等の結果を踏まえると、「居たい」「行きたい」「やってみたい」という3つの視点が特に重要である。

(子どもの居場所づくりに関する指針より)



子どもが決める居場所 ⇄ おとながつくる居場所



子どもの声を聴く

子どもが主体的に参画できる仕組みや機会をつくる



子どもの居場所づくりにおける4つの基本的な視点



4 仙台こども財団の取組



①子どもの主体的な社会参画を促進する取組

子ども・若者会議

子どもたちが意見交換や対話を通じて提案の実現にチャレンジ



こどもいきん広場

市の施策等に対して子どもたちが意見を伝え、まちづくりに参画



仙台こども財団
シンボルマーク
／デザイン募集中／



こども提案 プロジェクト助成

子どもたちが主体となったまちづくり活動へ助成



②多世代交流の居場所を増やす取組



多世代交流
モデル事業
つくる

市内の多様な多世代交流の
居場所づくりを紹介・発信

せんだい・こども居場所
＼レポート発信中／

事例紹介・
情報発信
広げる

こども・どこでも
居場所づくり助成
増やす

地域が主体となって取り組む多世代
交流の居場所づくりを協働で支援

多世代交流の居場所づくり
のスタートアップを支援

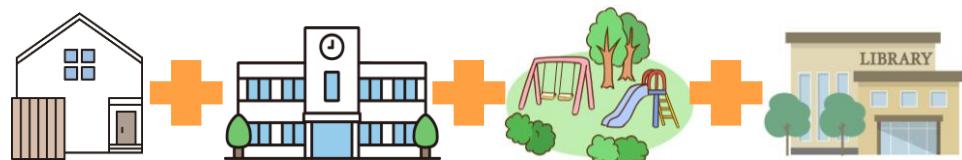
＼現場レポート発信中／



居場所づくりによって目指すべき方向性

〈どこも〉

より多くの子に
よりたくさんの居場所を



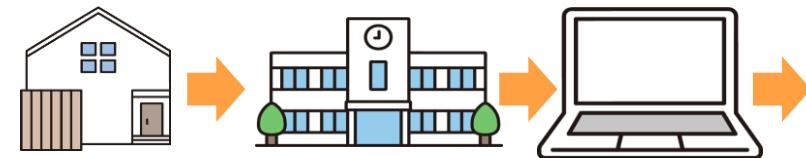
家庭も学校も、地域も公園も
友だちの家も駄菓子屋も、
図書館もコンビニも、
児童館も放課後子ども教室も、
プレーパークもこども食堂も…

AもBもCも…「どこも」



〈どこか〉

どんな子にも
少なくとも一つの居場所を



家庭や学校がダメなら第三の居場所、
リアルがダメならオンライン、
出られないなら訪問、
どこもなければどこか創る…

AがダメならB…「どこか」

仙台こども財団としてこれから取り組みたいこと

- 「どこも」の視点で居場所を増やしていく
- 社会全体で子どもの居場所づくりを応援する気運を一層高めていく



居場所づくりに取り組んでいる方

みんなの取組を

ぜひ教えてください！



居場所づくりに関心のある方

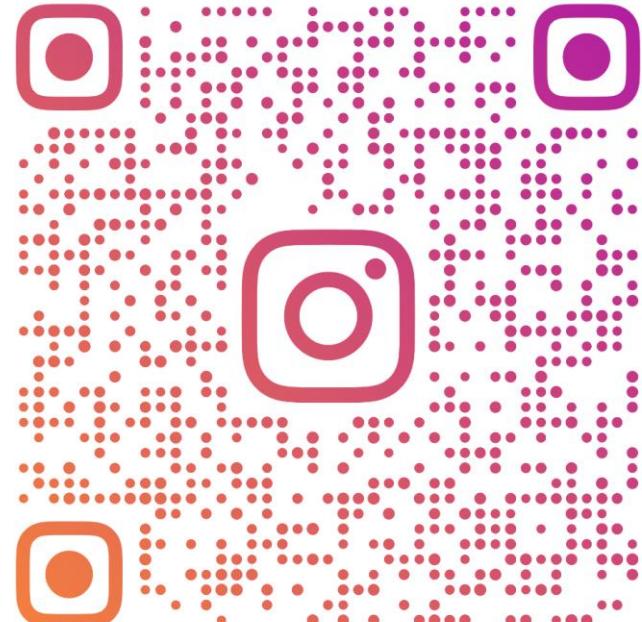
身近な活動から

ぜひ始めてみましょう！



居場所づくりの取組を発信しています！

＼財団インスタグラムはこちら／



S_KODOMO_ZAIDAN



＼財団ホームページはこちら／



ぜひフォローを
お願ひします！

